

テーマ：貿易統計（2014年7月）

発表日：2014年8月20日（水）

～持ち直しつつあるが、改善ペースは緩やか～

第一生命経済研究所 経済調査部
 担当 副主任エコノミスト 高橋 大輝
 TEL：03-5221-4524

		貿易収支(億円)				輸出数量						輸入数量					
		輸出金額		輸入金額		アメリカ		EU		アジア		アメリカ		EU		アジア	
		原数値	季調値	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比
13	8月	▲ 9714	▲ 9030	14.6	16.2	1.9	0.9	▲ 1.2	0.4	▲ 1.9	▲ 2.2	▲ 0.6	▲ 2.5				
	9月	▲ 9432	▲ 11368	11.4	16.7	▲ 1.8	▲ 1.2	▲ 2.2	▲ 4.0	▲ 2.1	▲ 5.8	14.0	1.4				
	10月	▲ 11004	▲ 12111	18.6	26.3	4.4	5.3	8.0	2.0	6.4	▲ 2.0	6.0	3.3				
	11月	▲ 13011	▲ 13251	18.4	21.2	6.2	2.9	0.4	5.9	3.4	21.2	▲ 7.0	1.8				
	12月	▲ 13072	▲ 11855	15.3	24.8	2.5	▲ 4.6	5.4	2.2	4.7	1.1	16.9	1.8				
14	1月	▲ 27950	▲ 17240	9.5	25.1	▲ 0.2	6.3	5.5	▲ 2.0	8.0	15.3	9.2	10.9				
	2月	▲ 8047	▲ 11406	9.8	9.0	5.4	▲ 1.0	8.2	5.0	▲ 0.5	16.0	8.5	▲ 2.9				
	3月	▲ 14507	▲ 16098	1.8	18.2	▲ 2.5	1.5	▲ 0.3	▲ 4.9	11.6	13.3	12.8	11.3				
	4月	▲ 8149	▲ 8641	5.1	3.4	2.0	▲ 1.5	4.8	▲ 1.1	▲ 1.3	6.2	0.6	1.1				
	5月	▲ 9108	▲ 8658	▲ 2.7	▲ 3.5	▲ 3.4	▲ 1.9	6.4	▲ 5.0	▲ 4.0	1.0	▲ 0.7	▲ 2.3				
	6月	▲ 8232	▲ 10678	▲ 1.9	8.4	▲ 1.7	▲ 1.8	4.5	▲ 5.4	7.2	6.4	7.8	8.1				
	7月	▲ 9640	▲ 10238	3.9	2.3	0.9	▲ 1.0	3.6	0.6	▲ 0.4	▲ 0.7	▲ 2.9	▲ 2.8				

(出所)財務省「貿易統計」

○持ち直しつつあるが、改善ペースは緩やか

7月の貿易統計が財務省より発表され、貿易収支は9,640億円の赤字（コンセンサス：▲7,242億円、レンジ：▲10,736～▲4,933億円）となった。季節調整値で見ると、輸出が前月比+1.5%、輸入は同+0.6%とともに2ヶ月連続の増加である。貿易収支は10,238億円の赤字と前月から小幅縮小したが、1兆円を超える赤字が継続した。輸入が増加基調に回帰しつつある中、輸出の持ち直しペースは緩やかなものに留まっている。

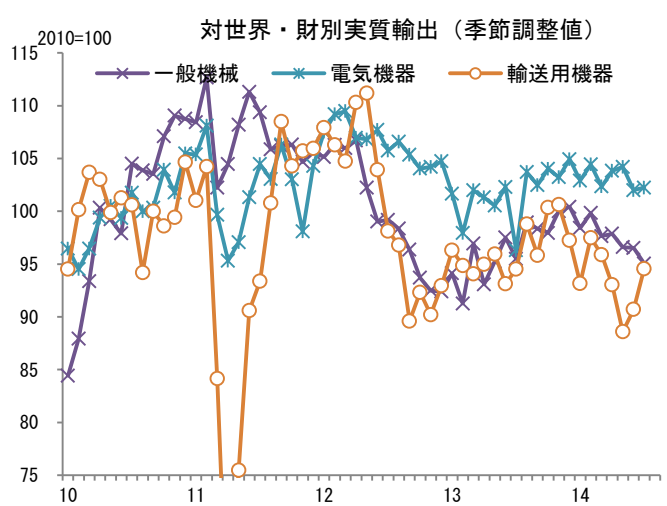
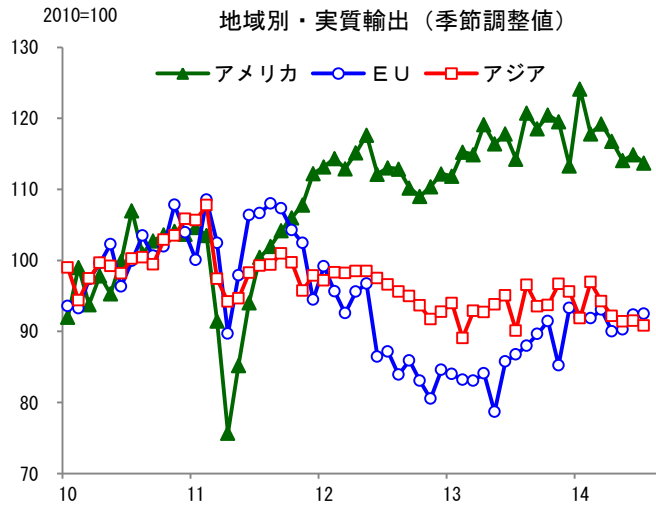
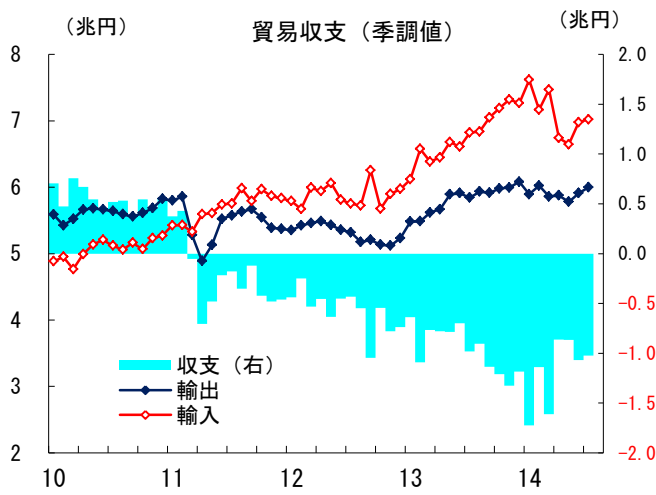
物価変動の影響を除いた7月の実質輸出（実質化、季節調整は第一生命経済研究所試算）は、前月比+0.7%（6月：同+0.5%）と2ヶ月連続の増加となった。もともと、3月以降の減少を踏まえれば増加ペースは緩慢であり、水準は低いままだ。4-6月期平均と比較しても、+0.4%と横ばい程度の動きに留まっている。

7月実質輸出を地域別に見ると、欧州向けが堅調な中、米国向けとアジア向けが足を引っ張っているという構図に変化はない。米国向けは前月比▲1.0%（6月：同+0.7%）と2ヶ月ぶりに減少した。機械類が横ばい圏内の推移となる中、輸送用機器が減少傾向で推移していることが背景にある。6月までの国内大手自動車メーカーの輸出向け生産台数は前年比マイナス幅が拡大傾向で推移している一方、海外生産台数は前年比プラス幅が拡大傾向で推移しており、現地生産の拡大が輸出の抑制に繋がっているのだろう。米国向け輸出の大きな割合を占める輸送用機器の持ち直しが見られないことは懸念材料だ。また、アジア向けは同▲0.8%と再び減少に転じた。NIEs向けが底ばいとなる中、中国向け、ASEAN向けの減少が続いており軟調な推移となっている。アジア・新興国の景気は力強さに欠ける状態が続いており、日本からの輸出がなかなか上向いてこない。欧州向けは同+0.1%と小幅ではあるが、3ヶ月連続の増加となった。輸送用機器が大きく増加したことが背景にある。

○輸出は先行きも持ち直しが続くと見込まれる

7月の輸出は持ち直しつつあるものの、増加ペースは緩やかであることが示された。輸出は先行きも、海外経済が回復に向かうことを背景に持ち直しが続くとみている。米国経済は、雇用や所得の改善などを背景に安定した成長軌道を進む公算が大きく、欧州経済は足元でやや芳しくない指標がみられるが、緩やかながらも改善は続いていくとみている。こうした先進国経済の持ち直しが、中国やアジア新興国の先進国向け輸出の増加に繋がり、日本からのアジア向け輸出が増加していくだろう。また、機械受注統計における外需は均してみれば増加基調で推移しており、今後一般機械輸出の増加が期待できよう。こうした動きを支えに先行きの輸出は緩やかな持ち直し基調で推移するとみている。

なお、7月の経常収支（季節調整値）は、現時点では黒字を予想しているが、黒字幅は小幅なものと思われ、黒字を維持できるかは微妙なところだ。



(※) 出所はすべて、財務省「貿易統計」。実質輸出の実質化、および季節調整は第一生命経済研究所。

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。